

新都市社会技術融合創造研究会 平成20年度 事業報告

1. 設立目的

社会資本の整備、維持・管理に関わる産・学・官の連携・協力による新しい技術の研究・普及等に関する事業を行い、もって都市再生と地域連携による経済活力の回復に貢献し、国民生活の質の向上、安全で安心できる暮らしの確保、環境の保全・創造に寄与することを目的として、新都市社会技術融合創造研究会（以下「研究会」という）を設立した。

2. 平成20年度活動概要

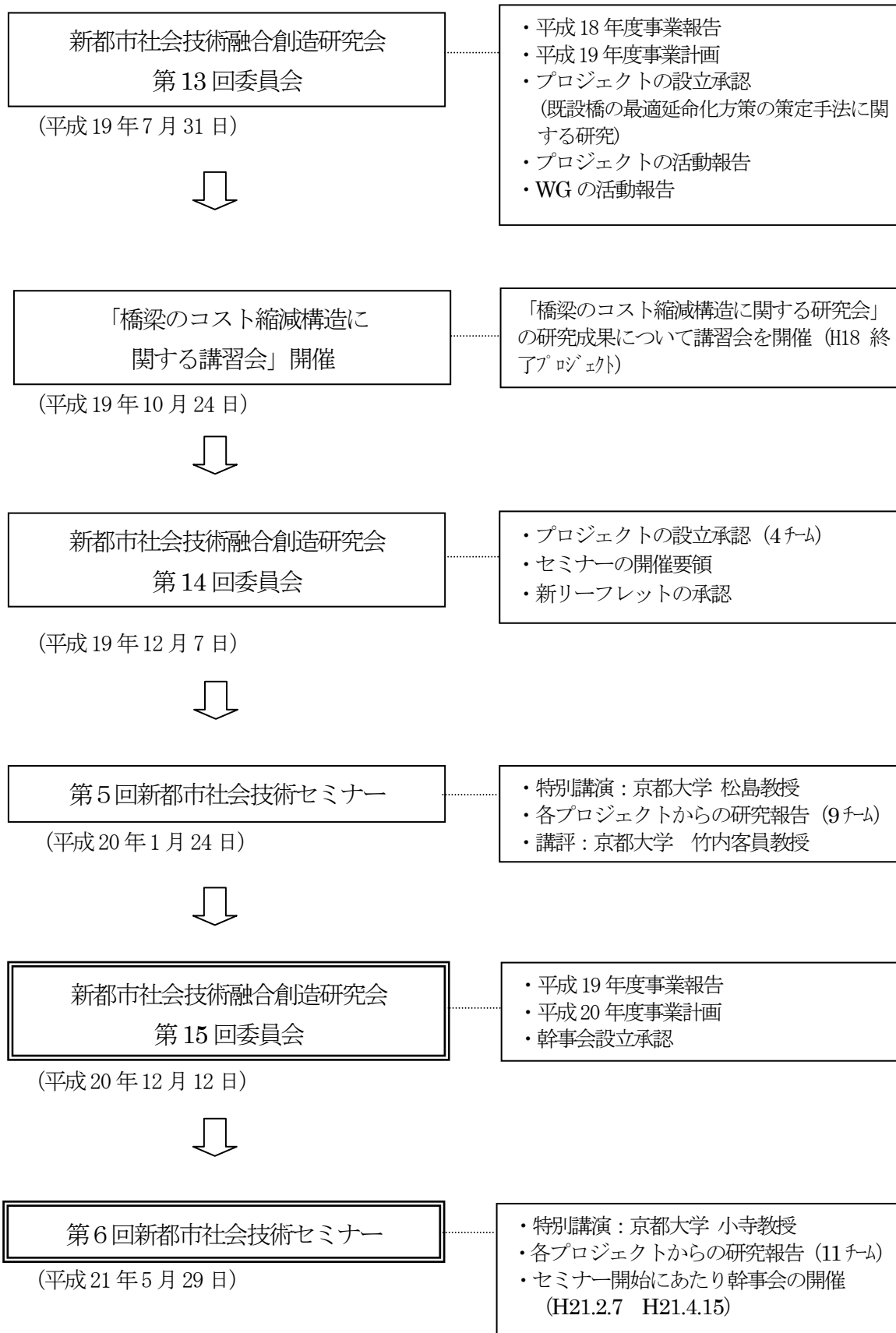
- ・H20年度は、委員会1回の開催に加え、当研究会主催において、「第6回新都市社会技術セミナー」を開催した。また、建設技術展 2008 近畿でのパネル展示及び研究発表を行った。
- ・セミナーにおいては、京都大学小寺教授による『特別講演』の他、各プロジェクトチームでの研究成果が発表された。産学官の各方面から約250名の参加があり、参加者からアンケートを実施した。

3. プロジェクトチーム設立状況（H20年度）

プロジェクトチーム	プロジェクトリーダー	研究期間
「道路トンネルの健全性評価に関する研究」	大西有三	H16～H20
「ITSを活用した道路交通ネットワークの調査・評価手法に関する研究」	谷口栄一	H18～H20
「ITSを活用したまちづくりのための交通マネジメントに関する研究」	谷口栄一	H16～H21
「積雪寒冷地における舗装耐久性向上及び補修に関する研究」	小林潔司	H19～H21
「鋼橋の疲労亀裂進展シミュレーション手法の開発とその維持管理への応用に関する研究」	坂野昌弘	H18～H20
「道路防災モニタリングネットワークシステムの構築に関する研究」	西山 哲	H18～H20
「景観性に優れたアーチカルバートを用いた盛土構造に関する研究」	岸田 潔	H18～H21
「既設橋の最適延命化方策の評価・策定に関する研究」	宮川豊章	H19～H21
「アンカー工設置のり面の健全性評価に関する研究」	沖村 孝	H20～H22
「舗装用骨材資源の有効利用に関する研究」	山田 優	H20～H22
「物理探査の連続計測による斜面地盤の工学的評価手法に関する研究」	楠見晴重	H19～H22

4. 研究会活動

平成20年度は1回の委員会（第15回）とセミナー（第6回）を実施した。



5. 広報活動

(1)記者発表及び新聞掲載

第15回委員会終了後、セミナー開催に当たって記者会見を行い、後日の新聞に記事が掲載される。(次頁以降掲載)

(2)ホームページ作成

近畿地方整備局内の当研究会 HP の更新を行った。

第15回委員会 新聞記事

日刊建設工業新聞
H20.12.16(10面)

建設通信新聞
H20.12.16(9面)

都市環境などをテーマに技術融合創造研究会に、産学官が技術の融合(委員長・大西有三京大副学長)は12日、大

円滑運営へ幹事会

セミナーは来年5月開催



委員終了後に会見した大西委員長は「プロジェクトを進めるうえで、実際に現場を活用して実情に応じた検討を行えることが研究会の大きな強みだ。継続中のプロジェクトは順調に進んでおり、良い成果をあげている。本年度に4プロジェクトが終了するが、セミナーや報告会などを通じて研究成果を広く還元していきたい。厳しい社会情勢の中で、新規プロジェクトの立ち上げは難しい状況だが、そういう時にこそさまざまなニーズが生れ、おもしろいテーマも発想につながる可能性がある」と語った。

開いた写真。委員会の行われ幹事会では、規田滑な運営に向けた幹事約の改定として幹事会の設置や、08年度事業計画を承認することにも、研究会全体で成果や活動内容を発表する「第6回新都市社会技術セミナー」を来年5月ごろに開くことなどを決めた。この日、午後3時から

02年度に決定した研究会は、京都大学、大阪市立大学、関西大学、神戸大学の教員や准教授、近畿地方整備局、日本道路建設業協会関西支部、日本土木工業協会関西支部、建設コンサルタンツ協会近畿支部の幹部らで構成する。現在、継続中のプロジェクトは①道路トンネル健全性評価技術の研究(大西有三京大副学長)②小口を活性化させた道路ネットワークの調査・評価手法に関する研究(同・谷口栄一京大大学院工学研究科教授)③小口を活用した



幹事会設置を承認
委員会での円滑な運営へ
新都市社会技術融合創造研究会(委員長・大西有三京大副学長)は12日、第15回委員

き、社会に還元することもすでに研究を終了し、次回セミナーでの特長となる。大西委員長は会見で「今後は11件。大西委員長がプロジェクトは異分野との交流を活発にエクトリーターを務める」道で新しいものを生み出している。路トンネルの健全性評価に関きたい」と、展望を述べた。